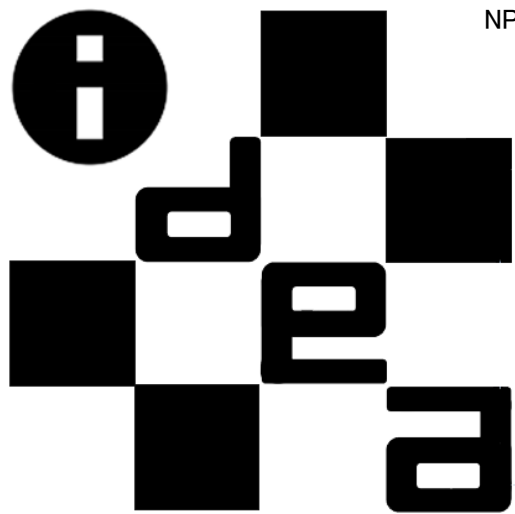




NPO・行政・企業・地域の情報発信により、アイデアと出会いの機会を創ります。

ニュースレター アイデア

2016

1月号

つながり×ひろがる

いちのせき市民活動センター



～ も く じ ～

- 2 | 二言三言～一関市の商工業と地域づくり～
- 4 | 団体紹介～一関手話サークルひろば～(一関)
- 5 | 地域紹介～大東町興田 下中川自治会～(大東)
- 6 | 企業紹介～株式会社 東北サファリパーク～(藤沢)
- 7 | センターの〇〇～みちのくワークショップフォーラム 2015～

フタコト×ミコト 第20回 二言三言 29/122,708

一関市の商工業と地域づくり

対談者 一関商工会議所 会頭 佐藤^{こうき} さん

聞き手 いちのせき市民活動センター センター長 小野寺浩樹

地域の特色を生かし市域の一体感を醸成する

【小野寺】一関商工会議所（以下「会議所」）の会頭になられて3カ月ほど経ちましたが、改めて新会頭としての抱負をお聞かせください。



一関商工会議所
会頭 佐藤^{こうき} さん

【佐藤】宇部会頭さんが亡くなられて急遽就任した形ですが、長らく副会頭をしていたので前会頭の方針を受け継いでいくことが役割だと思っています。前会頭が常々話していた地域の農商工連携はもちろん、一村逸品に当たるような地域の特色を出した地域活性化をやっていきたいと思います。特に一関は広いので各地域の特色は様々です。これらを生かしていかないと地域の活性化は図られないと思います。難しいことですが同時に、考えようによってはやりがいのあることだと思います。

【小野寺】農商工連携は地域活性化のカギになるのかと思います。いろいろな会議に出る機会がありますが、活性化のキーワードとして出てくるのは連携ですね。

【佐藤】明治の近代化は奇跡的と言われるほど短期間に進みました。それは、徳川時代260年の間に、教育をはじめ、農、工、商のそれぞれにおいて日本独自の改良がなされ続けていたこと。そして、各藩が独自の政策のもとに競い合っていたからだと言われます。

ところが、戦後は復興期から高度成長期を経て、いろいろな分野での中央集権化が進みました。戦後はほとんどゼロからのスタートでしたから、傾斜生産制などと言って、少ない資源や予算の配分や生産活動を国が重点を決めて行ったこともありました。これは物の少ない時代でしたので、中央集権的な仕組みはうまく機能し、さらに江戸時代から続く教育尊重の風土や

「匠の国」の基礎を生かすことによって、世界第2位の経済大国にまで登り詰めることが可能になったのです。

しかし、かつては有効に作用した中央集権方式は、豊かな国となって人々の価値が多様化している現在では、むしろある種の停滞要因となってしまっているのです。過去の『成功体験』は、もう役割を終えて、これからは各地域がそれぞれの特色を出して取り組む時代だと思います。日本の匠の技術を基礎に、日本の四季折々の際立ちやそれぞれに異なる地域の風土を生かすことをもう一度見直す必要があります。それが農商工連携のベースにあると思っています。

【小野寺】一関市が合併し会議所も合併しました。合併以降言われるのが一体感の醸成と地域の特色ですが、会議所ではどのように考えられていますか。

【佐藤】地域間の特色があって一体感が醸成されると思います。会議所の合併については、一関の場合はその区域が広いことや八つの商工団体の合併ですから、成功が危惧されていました。しかし、現在は地域間の特色を出しつつ、一体感が醸成されていると思います。これは、宇部前会頭が、合併に当たり方向性を明確に打ち出した成果です。

広域の各地には、それぞれ伝統や積み上げがありますから、よく言われるように、霞が一関で一極コントロールするというようなわけにはいきません。ですから旧商工会が行ってきたことをできるだけ尊重する方向でやってきました。そのことで各地域は安心したと思っています。

【小野寺】元の商工会の活動はそのままでしょうか。

【佐藤】多くはそのままです。地域の行事はそれぞれ蓄積があるので大切にするようにしています。祭りなどには本部から各地域に応援に行くようにしました。単独でやっていた頃よりはある意味では楽になったかもしれません。人の少ない所に応援に行くので皆で支援しているという思いが大切だと思っています。結局、一体感とは何かと言えば最終的にはそれぞれの思いの共有ではないでしょうか。

商工会議所の力を地域づくりへつなげる

【小野寺】最近、市内各所での住民ワークショップで話題になるのが生活の足の確保で、我々も一緒に頭を

悩ましています。会議所の支援も必要だと思いますがどうお考えでしょうか。

【佐藤】そうですね。どちらかと言えば行政の役割だと思うのですが、まちづくりをどのように設計しそこに交通インフラをどう位置づけるかです。100円循環バスの活用もあり、その時は車両を小さいものを利用することも必要です。赤字のバス会社を立て直した話を聞くと、従来の決まったバス停ではなく、そのまちのニーズに合わせたバス停を新しく作っています。ニーズを探るマーケティングを行い、無駄を削ぐことで赤字路線が黒字に変わっていく例もあります。

市民協働の話がありますが、今の協働はどちらかというと行政が何かを提案して民間を手伝いに囲い込む形になっています。本来はお互いが出し合ってノウハウを共有してやることだと思いますので、今後はうまく協働していける仕組みづくりの中で行うことが求められるでしょう。



【小野寺】それとともに、生活用品や生活するための最低限の物だけでも買える店が欲しいとか移動販売があればいいなどの声も上がってきます。実施に向けて地域の人達が手を上げてくれればいいのですが、なかなかないようです。

【佐藤】採算性が取れるとなればやる人が出てくると思います。問題は採算が取れることで、そうでないと長続きはしないでしょう。スタートの一定期間は行政が助成することは必要かもしれませんね。

【小野寺】私どもが行っている地域の話し合いに会議所さんにも参加していただき、何か一緒にできるものがあればやってみたいと思います。

【佐藤】必要なものは大きなベースになる計画、構想、将来像を描いてそれに向かい、今現実にやれることをやっていくかだと思います。場当たりの思いつきでやると効率が悪く限られた人材や財源を消耗してしまいますので、そのような共有の場が最初に必要かと思っています。

【小野寺】現在、各地区で地域づくり計画が進んでいて、そのためのワークショップで住民の方々と話し合い、産業や商業などの地域の将来ビジョンを描いています。いずれ会議所さんと共有の場が必要かと思っています。

【佐藤】そうですね。課題を列举してどうすればそれがクリアできるものか、できないものかを検討することが大切ですね。自分たちですか、行政に頼むか。

行政に提案してもなかなか動かないと言われるのですが、提案しっぱなしでは無責任だから、もう一歩突っ込んで、私たちの知らない行政側の立場や制度的なものを理解することも必要だと思っています。

【小野寺】地域の人達が作った計画を基に会議所さん

にも入って話をしてもらえればいいと思います。住民だけで話すのではなく、商店街の人たちにも入っていただくことで広がりが出てくると考えています。

【佐藤】似たような話が別々にあると効率が悪いので、一連の流れとしてあると良いですね。このような問題については、いちのせき市民活動センターが中心になってもいいのですが、行政、会議所、住民、関連の人たちでの話し合いは、こんな道筋で全体を持って行くという大きな全体構想があり、そこに会議所にも入ってほしいとなればやりやすいですね。

【小野寺】そのような場は継続的に作っていきたいですし、ぜひ一緒に関わっていただければと思います。会議所さんはニーズを発見しやすいので、一番力を発揮しやすい場面で尽力いただけるのではと思います。

励まし認めながらマインドを醸し出す^{かも}

【小野寺】会議所で現在感じている課題はどんなことでしょうか。

【佐藤】どうしたら前向きなマインドを醸し出すことができるかだろうと思います。会員は減少傾向にあり、商店の70%は後継者なしのデータもあります。商売が減れば当然会員が減ることになってきます。誘致工場はどちらかといえば順調にっていますが、会員として中心になって働いていただくことは少ないですし立场上も難しいわけです。結局、地域に根ざした人が活動の中心となっていていただくことになります。そこが将来的に危惧しているところです。基本的に地域が住みやすい所になってくれれば良いわけです。

【小野寺】商店街の抱えている課題と地域の抱えている課題は違うと思います。課題の違いの明確さを見極める。マインドを変えとはどういうことをしていけばよいのでしょうか。

【佐藤】結局、小さなことでも一つ一つ励ますことだと思います。励ますという意味は、「頑張れ！」と声をかけることもそうですが、少しでもいいから支えることです。今、京津畑(大東町)がなかなか元気で、よく新聞にも出てきます。何か特殊性があるわけではないが、とにかくみんな頑張っている。それが端から見ると地域で頑張っているねとなってマスコミが取り上げやすい。地元のお客さんも多いが視察の人達も多い。始まりは何人かのグループが動きだした。そうすると行政も頑張っているからと支援するようになる。受け止める方からすると、認めてもらった、ちょっと支援があった、新聞に取り上げられた、よそから人が来た、それが刺激になりいい循環になっています。

【小野寺】そうですね。認めてもらえることで次への励みになり、好循環が生まれますね。

基本情報

【一関商工会議所】

会頭: 佐藤晃彦さん

一関本所 〒021-0867 一関市駅前1番地

TEL 0191-23-3434 FAX 0191-21-2030

E-mail soumuka@i-cci.com

一関手話サークルひろば

団体 紹介



一関手話サークルひろばの皆さん

～基本情報～

- ◆会 長：佐藤 陽子^{ようこ}さん
- ◆連絡先： 〒021-0901
一関市真柴字中田 185-82
- ◆電 話： 0191-26-5379
- ※連絡先・電話ともに事務局長千葉由紀子^{ゆきこ}さん宛
- ◆活動日：毎週火曜日 19:00～21:00
(一関総合福祉センター4F和室・見学歓迎)

通じ合える喜びが溢れるひろば

禁止されていた言語「手話」

ここ数年で「手話は言語」という認識も徐々に広がってきていますが、かつて手話が、ろう者（耳の聞こえない人）の口話（こうわ）教育の妨げになるという理由で、ろう学校でも使用が禁止されていたことがあったことをご存知でしょうか。

聴覚障がい者とうまく意思疎通できなかった経験から、小野寺博人さん（初代会長）ら有志が「一関手話サークルひろば（以下ひろば）」を設立した昭和48年も口話教育が主流の時代。平成10年頃まではろう学校の学習指導要領に手話が含まれていなかったことに驚かされるように、手話に対する社会的な考え方は時代の中で変遷を経ながら今に至っているのです。今回は小野寺奈美子元会長、久保田美恵子副会長、千葉由紀子事務局長からひろばと手話のお話を伺いました。

地域に根差した手話サークルとして

ひろばでは手話の普及、健聴者（聞こえる人）と聴覚障がい者の相互理解・交流を深めることを目的に、健聴者とろう者が一緒に活動しています。その光景は毎週火曜日の定例手話講習会でも見ることができますが、健聴者だけの手話サークルもあるので、ろう者と一緒に学べるひろばは恵まれているのだそうです。

また、会員の親睦と交流を深めるために行っているお花見会やクリスマス会も、一関市内の手話4団体合同で行っており、ひろばの親睦はもちろんのこと、手話に関わる仲間として団体の枠を超えて一緒に行事や会議を行っているのもひろばの特徴です。

「耳の日大会」「東北ろうあ者大会」などの、岩手県や東北単位のイベントへの参加機会もありますが、根底にあるのは「地域に根差した活動を」という想い。

「簡単な手話を覚えるのと一緒に、『見えない障がい』と呼ばれ誤解されやすい聴覚障がい者について、地域の方達にまずは少しでも知って理解してもらえたら」と地元の婦人会や企業などで手話講習会を実施。「看護師さんや施設の職員さんなど、手話に関心があるけれど忙しくてひろばへ来られない方達にも出前講座ができれば」と次の目標も見据えています。

大切なのはみんなが通じ合えること

いわて国体に向けた手話ボランティアの養成や、『手話言語法（手話の認知をより確かなものにし、手話言語に関する権利をより実効性を持って保障していくことを目指す）』の意見書を平成26年に一関市も採択するなど、手話は私達にとってより身近な存在になりつつありますが、会員拡大はひろばの課題の一つです。

現在ひろばには初級者から手話通訳士まで20代～60代の約30名が在籍。きっかけも目標も技術レベルも様々で、手話の難しさを感じることもあるそうです。それでも、「言葉を話せない赤ちゃんともおんぶやだっこでコミュニケーションする。手話はあくまで繋がるための一つの手段なので、難しいから無理と思わず、わかり合いたいという気持ちを大事にしてほしい」、「一番必要なのはコミュニケーション。言葉でも手話でも筆談でもいい。健聴者もろう者も、みんなが通じ合えることが大切だと思います」と話す皆さん。

手話の技術を学びながら「人と通じ合える喜び」が満ち溢れ、寒い季節でも静けさの中に手話を通してほっこり温かい気持ちに包まれる。そんなひろばの空間で、この冬、手話を体験してみませんか？



定例手話講習会の様子

地域 紹介



会 長 高橋 政智さん

～基本情報～

- ◆自治会長：高橋 政智さん（1期1年目）
- ◆下中川自治会は、76世帯約220人が暮らす大東町興田地区の集落です。毎年開催している収穫祭は、地域住民の絆を深める一大イベントで子どもから高齢者まで楽しんでいます。

できることをできる範囲で、笑顔でつくる地域の輪

新米自治会長、仕事と自治会運営の両立

大東町興田地区は一関市の北東部に位置し、蓬萊山（ほうらいさん）や御殿山（ごてんやま）そして室根山に囲まれ、清流興田川が潤す田んぼの広がりが、どこか懐かしい景色を思わせる自然豊かな地域です。

「今年から事務局も新しくなり、まだ手探り状態」と語るのは、下中川自治会会長の高橋政智さん。1期1年目の新米自治会長です。昨年まで自治会の副会長を務めていた高橋さんは、前任の自治会長が急逝されたことにより、在任期間を会長代理という形で務めていました。「しっかりと引継ぎをしたわけではないので、初めて知ることも多い」と続けます。

高橋さんは東山町内で企業経営もしており、現役の代表取締役。「一步会社から離れれば、地域の一人。下中川で生まれ育った自分の地元だからね、『忙しい』とか『できない』とか言う前に『どうすればできるか？』『どうすれば時間を作れるか？』という事を考えるね」と若き自治会長は語ります。

住み良い環境は相互のよい繋がりから

下中川自治会は、76世帯約220人が暮らしており衛生部、体育部、防災部の3つの部のほか、下部組織として、小集落ごとに10の組（1組約6～7世帯）があり、組長は1年ごとに輪番制とのこと。「役割をそれぞれ持つことで、お互い協力する大切さを共有してるんだよ」と引き継がれてきた組織形成について語ります。

興田川支流の位置にある下中川自治会は、環境活動にも自治会として取り組んでいます。年3回の河川草刈りや今年で3年目となる県道の草刈りは各戸全員が参加すること。高橋さんは「前はね、草刈り活動に不参加だった人にペナルティを付けていたみたいだったけど、それは廃止にしたの。参加できる人が

きる範囲で取り組む、来てもこなくても文句は言わない。できることをお互いに協力することが一番だよ」と、目を細め語ります。草刈り作業後には「ご苦労さん会」も同日開催。参加者の労を労い、親睦を深めることも忘れません。

収穫祭で心も体もぼっかばか

下中川自治会の拠点は下中川自治会館。昔から自治会館は住民の集いの場でしたが、老朽化により平成12年に建て直しを行い、一層集う環境が整いました。

ここを会場に、各家々で採れた自慢の農産物を持ち込み入札販売する収穫祭は、地域の恒例行事。「入札額はすべて100円。目玉商品ばかりで入札にも力が入る」と当日の様子を振り返ります。

昼食は地域内の下中川婦人会と食生活改善推進員方の協力のもと、手作りのおにぎりを持ち寄った野菜で作った芋の子汁を全員で囲み、各組ごとや子ども会の出し物、抽選会などを通し豊作を祝います。「毎年一番盛り上がるのはお母ちゃんだちの腕相撲大会」となんと頼もしいイベントもあり、住民の絆も深まっているようです。

「昔は11月上旬に運動会と芸能祭を交互に開催していたんだけどね、平成15年から収穫祭に切り替えた」と語り、「このようにスタイルを変えることも今後必要になるかもしれない」と高橋さん。「自治会の枠を通り越して、地域団体との情報交換や共有が大事だと思う」と最後に今後の運営について語っていました。



草刈り作業後の一コマ。青年層や女性の方々も協力的です。

株式会社 東北サファリパーク

企業 紹介



岩手サファリパーク
支配人 菅野 伸夫さん

～基本情報～

- ◆支配人：菅野 伸夫さん（岩手サファリパーク）
- ◆連絡先：〒029-3311 一関市藤沢町黄海字山谷 121-2
- ◆電話：0191-63-5660
- ◆FAX：0191-63-5666
- ◆ホームページ：<http://www.iwate-safari.jp>
- ◆営業時間：冬期間午前8時30分～午後4時30分
（通常営業時間 午前8時～午後5時）

間近で動物とふれあってもらいたい それが一番の目的です

出会いは突然！藤沢町にサファリパークが！

一関ICから国道342号線を花泉方面へ、花と泉の公園を經由し花藤橋を渡り約45分、藤沢町黄海の山谷地域に岩手サファリパークがあります。

「本当に山ですよ」と優しく微笑むのは、岩手サファリパーク支配人の菅野さん。「岩手県にも動物園はありますが、サファリパークは間近でふれあえる唯一のテーマパーク」と続けます。

藤沢町にサファリパークが開園したのは平成20年4月のこと。「当初はね、藤沢町ではなく花泉町に開園する目的で一関に来たんですよ」と驚きの発言が。

「初代社長は、動物たちが暮らすための自然環境はとてよく整っているなと感じたようですが、用意された土地の面積が小さかったんですね」と続けます。「せっかく一関まできたのだからと、藤沢町の館が森高原まで足をのばした時、初代社長が『ここに東北サファリパークを作ろう！』と一目ぼれしたんです」と当時を振り返ります。

旧藤沢町の協力と山谷地域への住民説明の後、一目ぼれから1年半ほどで岩手サファリパークがオープンしたのです。

動物とのふれあいで笑顔が生まれる

東北サファリパークは福島県二本松市と栃木県那須市にも施設があり、ライオン・トラといった肉食動物、キリン・ゾウといった草食動物などの動物を放し飼いし、その中を専用のバスで移動します。

「岩手サファリパークには50種500頭（羽）の動物たちがいます。とくにラオスから来たゾウは背中に乗ることができ一番人気」と語り、「ただこの時期は寒いですからね、越冬のため那須サファリパークに一時移動中。春にまた来ますよ」とにこり。

同社では地域の人にもっと気軽に動物とふれあってもらおうと、移動ミニサファリパークも実施しています。「毎年、一関市の農業祭、生協祭、藤沢の産業まつりや室根の牧場まつりで、見たり触れたりすることができます。依頼があれば学校を含めた各施設にお伺いしますよ」と語り、「震災後は沿岸部の子どもたちを招待しましたが、動物とふれあっているときのあのキラキラした笑顔、輝いていましたね」と続けます。

地域にプラス企業にプラス win-win の関係

サファリパークで出会えるのは動物だけではありません。「逸材です」と菅野さんが語るのは同パーク内の専用バスの運転手さんのこと。「ふんつあ～（藤沢）訃りで案内をするので、来園者を楽しませてくれるんですよ」と語ります。現在従業員42名のうち、調教が必要な特殊動物管理には市外から専門のスタッフを採用していますが、通常の飼育管理や飲食売店の運営事務職等はほとんどが町内もしくは市内の方々。

また、動物たちの餌は地域内の農家が育てた規格外野菜や、豊作のため余ってしまったという野菜を購入しています。「契約農家がいるわけではありません。本当に地域の方々が大切に育て、処分せざるを得ない野菜を購入させていただき動物たちに与えています。農家の方々に『食べきれないから』と格安で譲っていただき本当に感謝しています。なによりも外国産の餌に頼らない環境をここ藤沢で実現できています」と支配人だからこそ思う地域との関係性について語っていただきました。

「毎年周辺企業と協力し『館が森風祭り』を開催しています。楽しいイベントを企画してお待ちしております」と最後に告知を頂きました。





センターの〇〇！

— みちのくワークショップフォーラム 2015 —

12月5日(土)一関市といちのせき市民活動センターが主催した“みちのくワークショップフォーラム 2015”は県内外で活躍している講師7名を迎え、地域づくりやチーム形成のノウハウなどを学びました。参加者は8講座の中から2講座選び、自分や自団体の活動に合ったワークを受講。出会いのワークでは若干緊張気味でしたがしだいに心も体もワークを通してたかくなる…そんな一日でした。

出会いのワーク



市内外の地域活動団体や市民など、総勢 60 名以上が参加。緊張の中出会いのワークがスタート。

稲村理紗さんのワーク



「めざせ！ローカルファシリテーター」をテーマに、「地域にあったファシリテーターって何だろう？」をみんなで一緒にひも解いていきました。

小野浩司さんのワーク



「相手に Yes と言ってもらえるプレゼンテーション」をテーマに、神経言語プログラミング(NLP)の手法を使ってコミュニケーションデザインに挑戦しました。

宮崎道名さんのワーク



「“作るまちづくり”から“残すまちづくり”へ」をテーマに100年後のまちマップ作成をしました。夢や希望溢れる未来地図はきっと今後の地域づくりに生かされることでしょう！

澁谷和之さんのワーク



デザインの力で確実に商品が売れていくためのノウハウを学ぶことができた「売れるデザイン教室」。観察する力、視点の大事さがわかりました。

葛巻徹さんのワーク



社会の仕組みを変えていく「コミュニティ・オーガナイズリング」。活動するメンバー同士の関係を構築する「関係構築」を体験しました。

菊池広人さんのワーク



「進化につながる事業評価」をテーマに実際の失敗談を基に、ポジティブな評価の必要性を学び合いました。

後藤真さんのワーク



午前はプライベートでも応用ができる具体的なチームビルディング技法を学び、午後は「それぞれの、リーダーシップ」をテーマに自分らしいリーダーシップを考えました。

振り返りのワーク



「長い時間だと思ったけど、あっという間の一日でした！」「明日からの業務に生かすことができる内容だった！」「来年も絶対参加します！」と参加者の皆さんは思い思いの学びを持ち帰られました。

ご参加されたみなさまへ

みちのくワークショップフォーラムは今年の開催で 5 回目を迎えました。今年はチラシや Facebook で情報発信したと同時に多くの申し込みがあり、皆さまの学びたいという志に感銘を受けました。たくさんのご参加をいただきまして誠にありがとうございました。この場をお借りしましてお礼申し上げます。都合で参加できなかった方々、来年も企画いたしますので是非ご参加くださいね♪

おしらせ

一関

ダム建設写真展 in あいぽーと サラバ石淵そして胆沢へ

日本で最初のロックフィルダム（岩塊を積み上げて建造したダム）として、昭和28年に胆沢川上流に造られた石淵ダム。北上川特定地域総合開発事業の一環として建設され、その歴史を当時の貴重な写真と共に振り返り学びます。

【期間】平成28年2月28日（日）まで
【場所】北上川学習交流館あいぽーと
【料金】入場無料
【問合】北上川学習交流館あいぽーと
【電話】0191-26-0077

一関

まちづくりコーディネーター 養成講座

第6回となる今回の講座は、「情報発信のススメ」。紙媒体やインターネットを使った様々な情報発信の仕方を確認し、各手段の基本的な使い方や注意点、比較した時の強みや弱み、活用の仕方について学びます。

【日時】平成28年1月9日（土）9時20分～12時
【場所】なのはなプラザ4階共同会議室
【料金】2,000円（全6回）
【問合】いちのせき市民活動センター
【電話】0191-26-6400

川崎

みんなの居場所づくり事業交流会 音楽療法に挑戦！

音楽を通じて、障がいのある方の仲間づくりや地域の方と触れ合う交流会です。音楽療法士の杉山ふみ先生をお迎えし、楽器の演奏や歌、ゲームに挑戦して楽しくリフレッシュ♪歌や踊りが苦手でも大丈夫！気軽にご参加ください。

【日時】平成28年1月19日（火）10時～11時30分
【場所】川崎市民センター音楽研修室等
【料金】参加無料
【問合】NPO法人アートで明るく生きるかわさき
【電話】0191-43-4733

一関

岩手・一関 第九回全国わんこもち大会

一関の餅文化をユニークに発信するわんこもち大会。競技種目は団体戦（2人1組）と男女個人戦があり、5分間で食べた餅の個数を競います。団体戦は24組、個人戦は男女各8名のエントリーを、1月20日まで受け付けています。

【日時】平成28年2月7日（日）10時～13時
【場所】なのはなプラザB1F（予定）
【料金】団体戦2,000円、男性個人戦1,000円、女性個人戦500円の出場料がかかります。
【問合】同大会実行委員会
【電話】0191-26-6400

大東

一関市・大東大原水かけ祭り

沿道で待ち構えた人達から容赦ない冷水を浴びせかけられながら、「火防祈願」「無病息災」「家内安全」を祈って勇ましく走り抜ける裸男達。江戸時代から続く祭りで、極寒の2月に行われることから天下の奇祭と呼ばれます。

【日時】平成28年2月11日（木）9時～16時頃
【場所】大東町大原 大原商店街ほか
【料金】入場無料
【問合】一関市・大東大原水かけ祭り保存会
【電話】0191-72-2282（大原市民センター内）

千厩

Hana金

参加者同士の自然な会話・交流の中で、お悩みの解決策を探ったり、企画を膨らませたりしていく、新しいようで自然な空間です。誰でも自由に参加できます。話したい人はもちろん、聞きたい人も！今回は「アイディア絞り大会」♪

【日時】平成28年2月19日（金）18時45分～21時
【場所】せんまやサテライト
【料金】300円（コビル・ドリンクつき）
【問合】せんまやサテライト
【電話】0191-48-3735

一関

一関ハンドクラフト展 vol.3

一関市在住の方を中心に、岩手内陸・沿岸・宮城のハンドメイド作家のお店47店舗が一関に集結！手作りの販売の他、ワークショップ（手作り体験）、展示室窓辺のコーヒースペースではパンや焼き菓子を頂けます。

【期間】平成28年2月27日（土）～28日（日）10時～16時
【場所】一関文化センター1F展示室、小ホール
【料金】入場無料
【問合】red*butterfly 鈴木亜衣
【メール】lovely@redbutterfly.biz

花泉

箱庭作り教室

鉢の中に、植物をメインに人形や動物などの小物を並べ景観を構成し、箱庭寄せ植えを作ります。主に多肉植物や観葉植物を使うので管理も簡単！20分から40分程度で制作できますので、お気軽にご参加ください。

【日時】随時
【場所】花と泉の公園
【料金】1,500円～
【問合】花と泉の公園（花泉観光開発株式会社）
【電話】0191-82-4066

一関

お試し移住 in いちのせき

一関に移住を考えている方、一関の生活を丸ごと体験できるお試し移住をしてみませんか？厳美の一棟貸切ゲストハウス「山笑亭」に滞在。農林業体験や市内の空き家情報をご用意しています。予約は下記電話番号まで。

【期間】2泊～7泊まで選べます。
【体験場所】一関市厳美町字外谷地
【料金】体験料は下記まで問い合わせください。
【問合】いちのせきニューツーリズム協議会
【電話】0191-82-3111

今月の表紙



写真は、川崎町門崎の(有)かさい農産でのごぼう茶づくりの一コマ。冬の太陽の下での天日干し作業が真っ盛りです。栽培から加工まで手作りのごぼう茶にはイヌリンやサポニンなどといった栄養素が含まれ、便秘改善など様々な効果が期待されています。

Q&A

あなたの「知りたい」にスタッフが答えます

Q 情報コーナーにチラシを置いてほしいのですが

A いちのせき市民活動センターの情報コーナーには、一関のイベント情報やボランティア募集などのチラシ、助成金情報や県内外の市民活動に関する情報を置いております。設置は無料ですので、チラシをご持参の上、窓口までお気軽にお問い合わせください。

